

協和産業

混合プラを100%選別

家電Rネットワーク展開

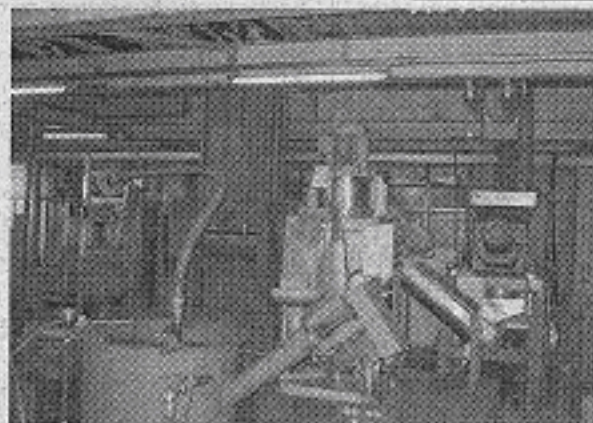
新プラント設置へ

協和産業（埼玉県鴻巣市、安藤太郎社長、☎048・596・2261）は、自社がもつ各種比重分離技術と日立造船の静電分離技術を組み合わせ、PP、PS、ABSなどの樹脂選別を可能とした。廃家電から出る混合プ



静電分離装置

ラスチックをほぼ100%の純度で樹脂毎に選別する新プラントを、自社工場に設置、今夏にも稼働を開始する。同プラントは外販も行っており、1ラインで1時間当たり500トンの処理能力。



比重分離装置

今回の家電リサイクルは、自社が従来から行っているプラスチッククリサイクル事業の一環。廃家電などに使用されているプラスチック

を粉碎した後、生成する混合プラをさまざまな風力・比重分離装置を経由させて処理する。同社独自の比重分離装置では短時間に

98%の選別が行える。さらに、日立造船の静電分離技術と連動することで、迅速ではば100%の選別が可能となる。同装置では、難燃剤の有無別に選別する事も可能。

同社はプラスチックリサイクル事業で、各メーカーから使用済みコンテナを回収しコンテナコンテナ、コンテナプラスチックパレットに再生還元させる事業のため洗浄粉碎装置を開発。この装置

が高品質リサイクル材の生産を可能にし、大手各種メーカーのケース・パレットのリサイクルを引受け、全国に自社工場5カ所、協力工場8カ所を整備した。

これらの拠点を活用し、コンビ二用コンテナのリサイクルを全国的に展開しており、使用済みコンテナを100%活用するクロースド・リサイクルを行っている。

同社は、自動車バンパーのリサイクル技術も確立しており、100%再生材を使用した

「バンパーtoバンパー」の展開をほかにしている。また、レンズ付きフィルムカメラの分野においては、カメラに使用されているさまざまな樹脂からポリスチレンのみ100%分離、回収を行い塩ビなどの異物も完全に除去できる技術を開発するなど、リサイクル事業だけではなく技術開発、機械・製品開発など幅広い市場のニーズに対応している。

同社の安藤裕二営業部長は「採算を含めて企業と企業の接合剤になる事業を行っていき

たい。プラント開発や販売だけではなく、プラント設置後のリサイクルネットワークを含め、今後の事業内容の提案も行う。家電to家電だけではなく、家電to otherマテリアルの思考も取り入れていく。リサイクル材の機能を追求し、高付加価値製品への展開を図り、コストがかかるリサイクル品が価格競争力と機能を併せ持つ

5月7日に開始予定の自販機マニフェスト管理システムは、JWNETでは非対応となっている自販機マニフェストの様式に対応しており、廃自販機の管理番号などの機器管理についても、従来の紙マニフェスト同様に取り扱える。自販機や飲料ショーケースなどフロンガス充填型機器類のフロン回収票（フロ

アルミ系廃棄物から水素発生

させる小型カートリッジ式の水素発生装置を用い、オンデマンド型

同社は、それぞれの研究開発や社会への適

を電子管理する新サー

士ス

二種認証を同時取得